

2017. **7**
No. **186**

調査レポート

県内勤労者の消費・貯蓄動向 ～第57回くらしのアンケートから～

要	約	1
1	家計の状況	3
2	耐久消費財の購入状況	4
3	外食	6
4	貯蓄	7
5	ローン等の利用	9
6	夏季ボーナス	10
7	お中元	12
8	夏休みの過ごし方	14

要 約

1. 家計の状況

- 1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が6.0%、「悪くなった」が14.1%、「変わらない」が79.9%。「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△8.1となり、昨夏(△8.2)と比べて大きな変化はみられず。県内景気は生産面を中心に緩やかな持ち直しの動きがみられるものの、暮らし向きへの波及は限定的で、生活実感の改善までには至っていない。年代別でみると、引き続き中高年層の生活実感が厳しい。
- 家計上の悩みは「収入の伸び悩み」が最も多く、以下、「税金負担増」、「物価上昇」の順。「収入の伸び悩み」は2.9ポイント低下したものの引き続き1位に。2位の「税金負担増」は昨夏と比べて4.3ポイントの上昇。

2. 耐久消費財の購入状況

- 耐久消費財の普及状況は、「テレビ」、「スマートフォン」、「パソコン」、「カーナビゲーション」の順。
- 今後半年以内に購入希望のある耐久消費財は「ハイブリッドカー」が最も多く、以下、「ロボット掃除機」、「パソコン」、「空気洗浄器」、「スマートフォン」の順。

3. 外 食

- 月3回以内の利用が過半数を占め、平均利用回数は2.4回と、昨夏から若干増加。
- よく利用する店舗は「ファミリーレストラン」が最多で、以下、「ファーストフード」、「日本料理店」、「大衆食堂」の順。

4. 貯 蓄

- 平均貯蓄額は573万円で、昨夏に比べて34万円減少。
- 現在利用している金融商品は、「銀行預金」、「ゆうちょ銀行貯金」、「生命保険」の順。今後増やしたい金融商品は、「銀行預金」、「投資信託」、「ゆうちょ銀行貯金」の順。
- 貯蓄する際重視する点は「元金の保証があり安心」が最多で、以下、「預け入れ引き出しが自由」、「利回りが良い」の順。

5. ローン等の利用

- ローン等の利用者は28.2%で、平均借入額は1,067万円。
- 利用目的は「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「教育資金」の順。
- 借入先は「銀行」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「銀行以外の金融機関」、「政府系金融機関」の順。

6. 夏季ボーナス

- 夏季ボーナスの予想は、2年連続で「減りそう」の比率が「増えそう」の比率を上回った。景況感の改善や労働需給の逼迫により、県内企業ではボーナスを増額させる意向がみられるものの、勤労者はボーナス支給に対して引き続き慎重な見方をしている。
- 平均手取り予想額は37万7千円と、昨夏に比べて2万1千円の減少。
- 使いみちは「貯蓄」が最も多く、以下、「買物」、「旅行・レジャー」、「教育費」の順。

7. お 中 元

- お中元を贈る予定者は、全体の 60.6%。
贈る件数は「2 件以下」が最も多く、平均件数は 3.6 件で昨夏をやや下回る。
- 1 件あたりの単価は、「3,000 円程度」が最多。平均単価は 3,955 円（昨夏 3,837 円）、平均予算総額は 14,256 円（同 14,215 円）と、ともに昨夏に比べて増加。
- 贈りたい商品は「ビール」（含むビール券）が最多で、以下、「ハム」、「お菓子」、「食用油」、「果物」の順。

8. 夏休みの過ごし方

- 「日帰り旅行」が最も多く、以下、「国内宿泊旅行」、「スポーツ・健康づくり」、「帰郷」、「海外旅行」の順。
- 「国内宿泊旅行」の宿泊日数は「1 泊」が 5 割強を占め、平均宿泊日数は 1.6 泊と昨夏（1.7 泊）と比べて若干減少。

● 調査実施要領

調査対象：県内の勤労者 1,088 名

調査方法：当行の営業店を通じ対象者に依頼

回答者数：1,057 名（回答率 97.2%）

調査時期：平成 29 年 5 月下旬～ 6 月上旬

〈 回 答 者 内 訳 〉

内訳	項 目	回答者数	構成比
年 代 別	20 代	231人	21.9%
	30 代	259	24.5
	40 代	243	23.0
	50 代 以 上	322	30.5
家 族	既 婚	712	67.4
	未 婚	343	32.5
性 別	男 性	516	48.8
	女 性	541	51.2
合 計		1,057	100.0

※ 合計には年代、家族構成未回答者を含む

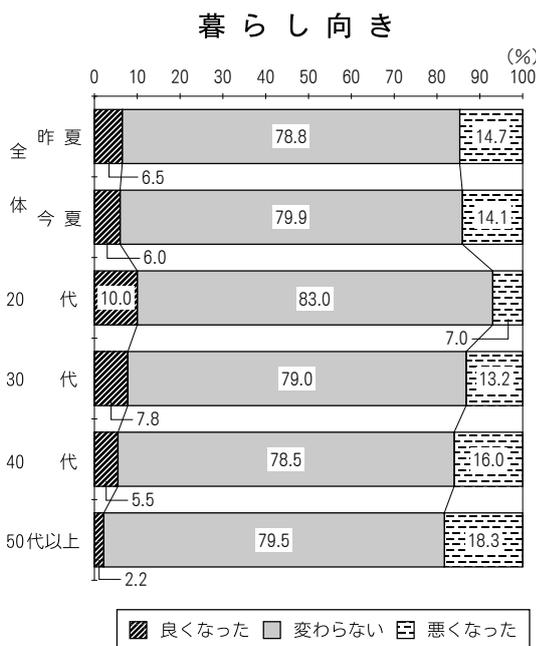
1 家計の状況

生活実感の改善までは至らず

1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が6.0%、「悪くなった」が14.1%、「変わらない」が79.9%となった。この結果、「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△8.1となり、昨夏（△8.2）と比べて大きな変化がみられなかった。

県内景気は生産面を中心に緩やかな持ち直しの動きがみられるものの、暮らし向きへの波及は限定的で、生活実感の改善までには至っていない。

年代別にみると、「良くなった」の回答比率は20代が10.0%に達している一方、50代以上は2.2%にとどまっている。また、「悪くなった」の回答比率をみると、年代が高くなるに連れて上昇しており、引き続き中高年層で生活実感が厳しい傾向にある。

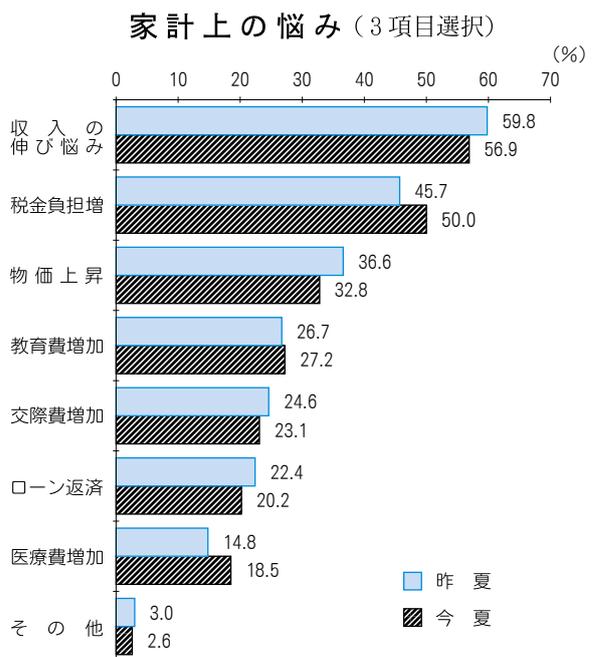


家計上の悩みは「収入の伸び悩み」が最多

家計上の悩み（3項目選択）は、「収入の伸び悩み」が最も多く、以下、「税金負担増」、「物価上昇」と続いた。

上位項目をみると、1位の「収入の伸び悩み」は2.9ポイント低下したものの、引き続き最多となった。年代別にみると、20代、30代の回答比率が6割以上となっており、若い世代ほど所得の現状に対する見方が厳しい。2位の「税金負担増」は昨夏と比べて4.3ポイント上昇した。特に20代では11.1ポイントの上昇と、若年層の負担感が強い。

上記以外の項目をみると、「医療費増加」、「教育費増加」が上昇した一方、「ローン返済」、「交際費増加」は低下した。



2 耐久消費財の購入状況

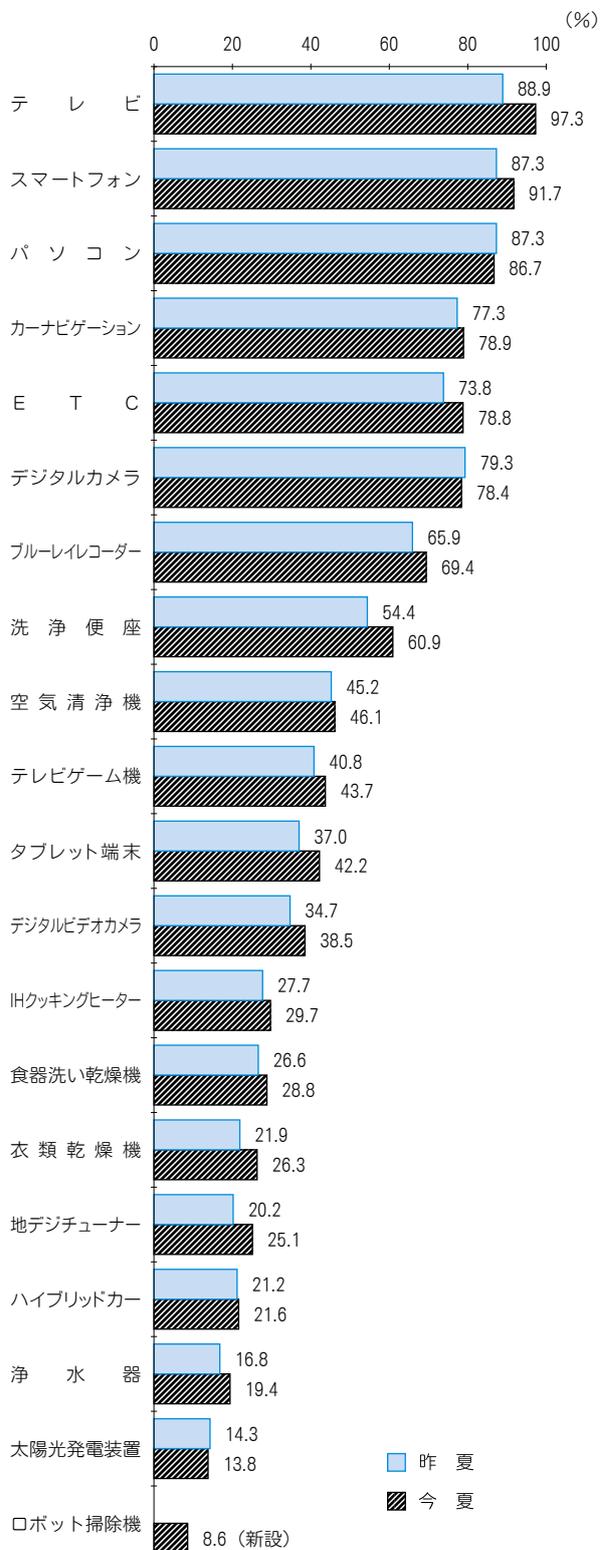
スマートフォンの普及率が90%超に

耐久消費財のうち、主要家電品など20品目についてその普及状況をみると、「テレビ」(97.3%)、「スマートフォン」(91.7%)、「パソコン」(86.7%)、「カーナビゲーション」(78.9%)の順となった。上位2品目は普及率が9割を超えており、同品目が広く普及していることを示している。

昨夏と比較すると、「スマートフォン」の普及率が4.4ポイント上昇し、パソコンを抜いて2位に浮上した。同品目の普及率を年代別にみると、20代が97.8%、30代が96.5%、40代が95.5%、50代以上が80.4%となっている。昨夏と比べると、40代が5.1ポイント上昇し、30代以下と同程度となったほか、50代以上も9.0ポイント上昇し8割を超えるなど、中高年層での普及が進んでいる様子が窺われる。その他の品目では、「洗浄便座」(54.4%→60.9%)、「タブレット端末」(37.0%→42.2%)、「ETC」(73.8%→78.8%)などの普及率が高まった。

このほか、今回から調査対象とした「ロボット掃除機」は普及率が8.6%となった。

耐久消費財の普及状況

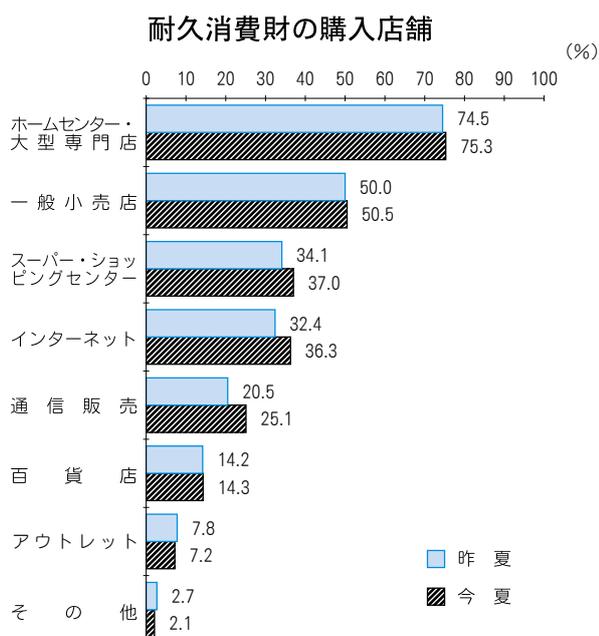


インターネットの比率が上昇

耐久消費財を購入した店舗（複数回答）は、「ホームセンター・大型専門店」が最も多く、以下、「一般小売店」、「スーパー・ショッピングセンター」、「インターネット」、「通信販売」の順となった。

「ホームセンター・大型専門店」の購入比率は0.8ポイント上昇し、昨夏に続いて1位となるなど、耐久消費財は主に大型店で購入されている。

2位以下をみると、「インターネット」の上昇が目立つ。「インターネット」の比率は36.3%で「スーパー・ショッピングセンター」（37.0%）とほぼ同水準にあり、同項目が耐久消費財の購入手段として一般化してきていると考えられる。また、購入比率を年代別にみると、20代が42.0%、30代が39.0%、40代が34.6%、50代以上が31.7%となっており、昨夏との比較では20代（昨夏比+7.8ポイント）、50代以上（同+8.1ポイント）の上昇が目立った。

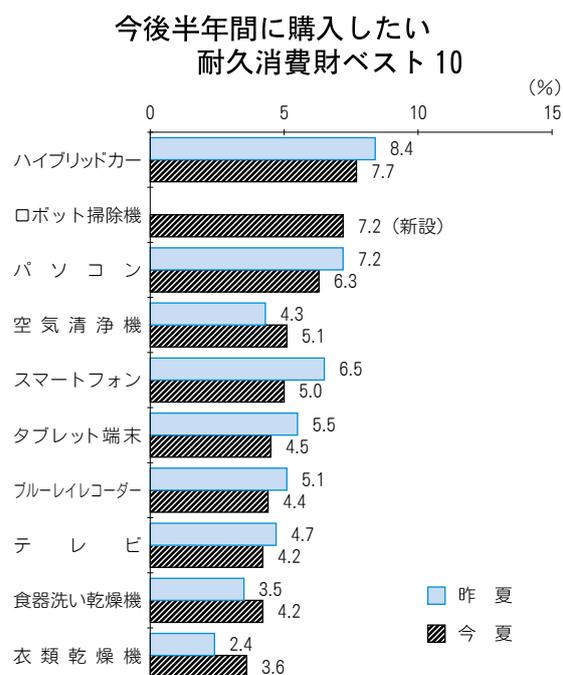


「ロボット掃除機」に高い購入意欲

今後半年以内に購入希望のある耐久消費財（複数回答、3品目以内）をみると、1位は「ハイブリッドカー」で、以下、「ロボット掃除機」（今回新設）、「パソコン」、「空気洗浄器」、「スマートフォン」の順となった。

上位品目の動きをみると、「ハイブリッドカー」が昨夏と比べて0.7ポイント低下したものの、引き続き1位となっている。2位には、今回新設した「ロボット掃除機」（7.2%）がランクインした。また、9位の「食器洗い乾燥機」（3.5%→4.2%）、10位の「衣類乾燥機」（2.4%→3.6%）の比率も上昇しており、家事の効率化を図る、いわゆる「時短家電」の購入意欲が高まっている様子が窺える。一方、これまで高い購入意欲がみられた5位の「スマートフォン」（6.5%→5.0%）、6位の「タブレット端末」（5.5%→4.5%）は、比率が昨夏と比較して低下したが、これらの品目の普及が進んできたことが原因と考えられる。

上記品目以外の動きをみると、「空気清浄器」の比率が上昇した一方、「パソコン」、「ブルーレイレコーダー」、「テレビ」は低下した。



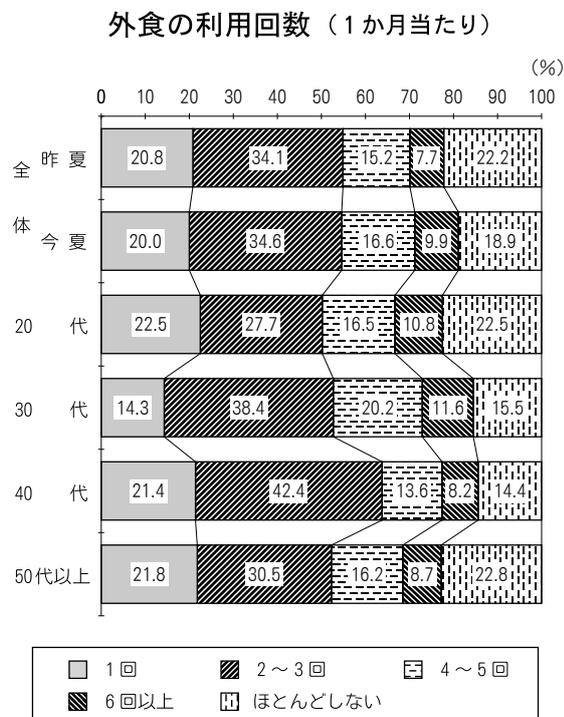
3 外 食

外食の利用回数は月2～3回が最多

家族での外食の利用状況を見ると、全体の81.1%が毎月1回以上利用しており、その比率は昨夏（77.8%）から3.3ポイント上昇した。

内訳をみると、「月2～3回」が34.6%と最多で、以下、「月1回」（20.0%）、「ほとんどしない」（18.9%）、「4～5回」（16.6%）、「6回以上」（9.9%）と続いており、月3回以内の利用が過半数を占めた。また、平均利用回数は2.4回で、昨夏（2.2回）から若干増加した。

なお、年代別の平均利用回数は、30代が2.7回と最も多く、以下、40代が2.4回、20代が2.3回、50代以上が2.2回となっている。



ファミリーレストランの人気の高い

よく利用する店舗（3項目以内）は、「ファミリーレストラン」が最多で、以下、「ファーストフード」、「日本料理店」、「大衆食堂」と続いた。昨夏と比較すると、「ファミリーレストラン」、「ファーストフード」、「大衆食堂」の比率が上昇した一方、「中華料理店」、「日本料理店」、「西洋料理店」は低下した。

なお、「その他」の比率は47.5%と半数近くを占めており、同項目の回答（自由記述）によると、比較的安価で手軽な回転寿司とラーメンショップの人気の高かったほか、コーヒーチェーンや居酒屋、焼き肉店など外食の楽しみ方も多様化している様子が窺われる。

よく利用する外食店舗（3項目選択） (%)

	昨夏	今 夏				
	全体	全体	20代	30代	40代	50代以上
ファミリーレストラン	64.3	69.3	70.6	75.3	74.1	59.9
ファーストフード	28.7	31.5	37.2	38.2	35.8	18.3
日本料理店	33.6	31.3	27.7	23.6	25.5	44.4
大衆食堂	22.1	22.9	22.1	25.1	21.4	22.7
中華料理店	21.6	18.4	19.0	19.3	14.4	20.5
西洋料理店	14.0	13.7	16.9	13.5	11.5	13.4
その他	45.3	47.5	41.1	48.6	53.5	46.6

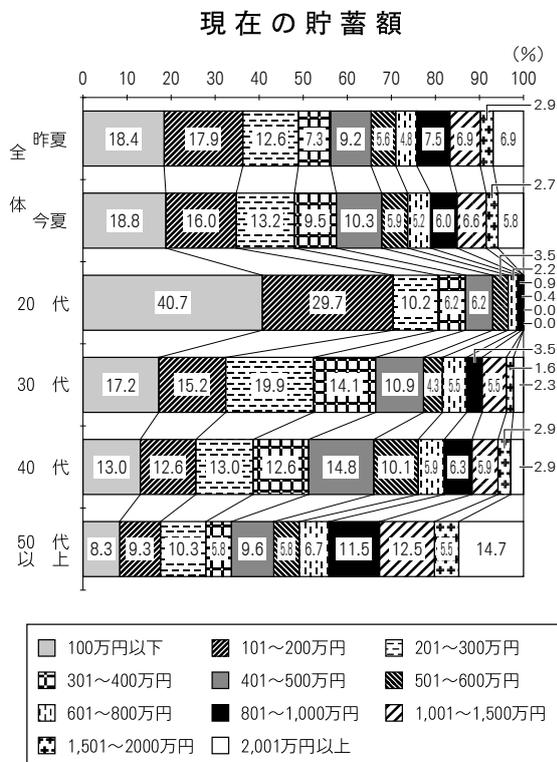
4 貯蓄

平均貯蓄額は573万円

現在の貯蓄額の分布をみると、「100万円以下」が最多で、以下、「101万円～200万円」、「201万円～300万円」、「401万円～500万円」、「301万円～400万円」の順となった。

また、平均貯蓄額は573万円（昨夏607万円）で、昨夏に比べて34万円減少した。

年代別の平均貯蓄額をみると、20代が188万円（昨夏比△2万円）、30代が439万円（同△26万円）、40代が533万円（同△68万円）、50代以上が981万円（同△98万円）となっている。

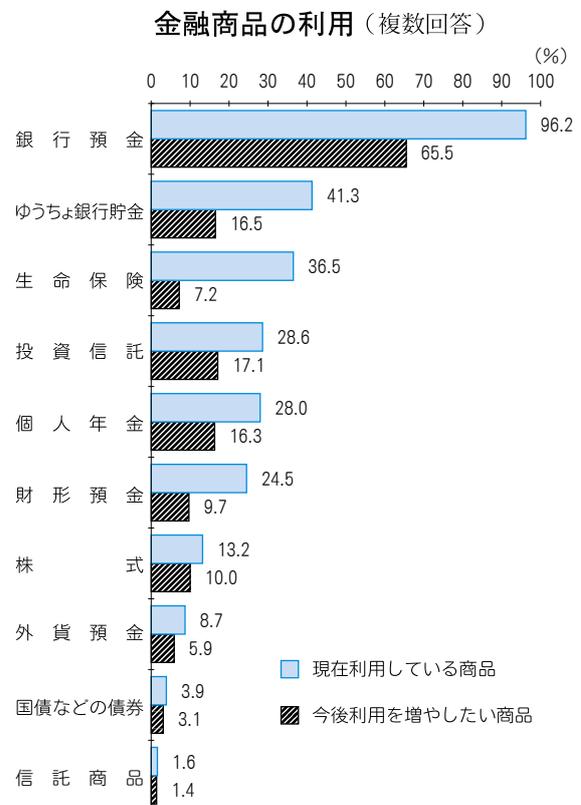


利用している金融商品のトップは銀行預金

利用している金融商品（複数回答）は、「銀行預金」が96.2%と最も多く、以下、「ゆうちょ銀行貯金」、「生命保険」、「投資信託」、「個人年金」、「財形預金」の順となった。

利用率を昨夏と比較すると、「生命保険」、「個人年金」、「財形預金」、「外貨預金」などが上昇した一方、「ゆうちょ銀行貯金」、「国債などの債券」などは低下した。

年代別に利用率をみると、「銀行預金」が各年代とも95%を超えており、高い利用率となっているほか、「国債などの債券」は年代が高くなるに連れて利用率が高くなっている。また、「生命保険」はいずれの年代においても昨夏と比べて利用率が増加している。

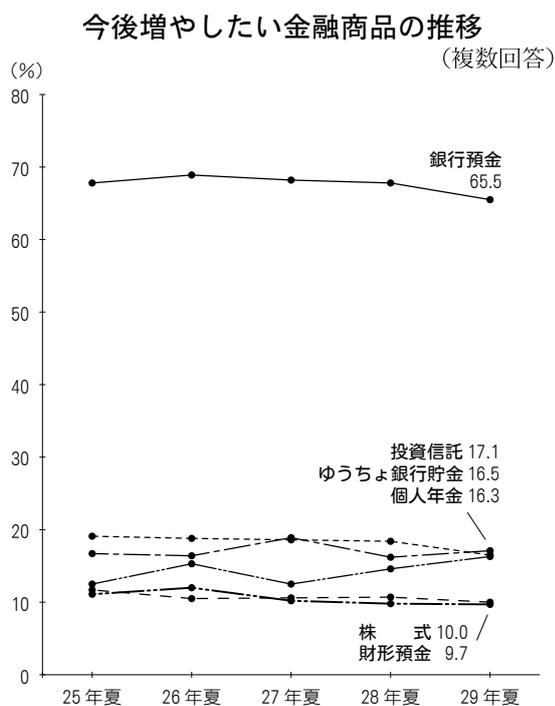


今後増やしたい金融商品も銀行預金が最多

今後増やしたい金融商品（複数回答）は、「銀行預金」が最多で、以下、「投資信託」、「ゆうちょ銀行貯金」、「個人年金」、「株式」の順となった。

昨夏と比較すると、「個人年金」、「国債などの債券」、「投資信託」などの比率が上昇した一方、「銀行預金」、「ゆうちょ銀行貯金」などの比率は低下した。

年代別にみると、いずれの年代においても「銀行預金」の比率が最多となっている。また、昨夏と比較すると、20代で「投資信託」の上昇、「銀行預金」の低下が、30代で「投資信託」の上昇、「ゆうちょ銀行貯金」の低下が、40代で「個人年金」の上昇、「ゆうちょ銀行貯金」、「株式」の低下が各々目立っている。



重視する点は「元金保証」が最多

貯蓄をする際、重視する点（3項目選択）は、「元金の保証があり安心」が最多で、以下、「預け入れ引き出しが自由」、「利回りが良い」、「値上がり期待できる」、「利用金融機関が自宅から近い」の順となった。

昨夏と比較すると、「元金の保証があり安心」、「値上がり期待できる」などが上昇した一方、「利用金融機関が自宅から近い」、「利用金融機関に友人、知人がいる」、「預け入れ引き出しが自由」などは低下した。

上位項目を年代別にみると、「元金の保証があり安心」は年代が高くなるに連れて回答比率も高くなっており、昨夏と比べると40代以上の上昇が目立っている。一方、「利回りが良い」は年代が若いほど回答比率が高くなっている。なお、「値上がり期待できる」は昨夏と比較してすべての年代で比率が上昇している。

貯蓄する際重視する点（3項目まで選択）

(%)

	全体	20代	30代	40代	50代以上	昨夏順位
元金の保証があり安心	67.7	54.5	66.4	69.1	77.0	1
預け入れ引き出しが自由	46.5	48.9	45.9	42.8	47.8	2
利回りが良い	45.9	49.4	47.5	47.3	40.7	3
値上がり期待できる	22.2	26.8	22.8	23.5	17.7	5
利用金融機関が自宅から近い	21.4	19.5	20.8	20.2	24.2	4
利用金融機関のサービスが良い	13.9	13.4	16.6	12.3	13.4	6
勤務先が利用金融機関と取引している	9.0	8.2	9.7	7.8	9.9	7
利用金融機関が勤務先から近い	8.0	11.3	8.5	6.2	6.8	8
利用金融機関に友人、知人がいる	4.3	3.5	1.9	4.9	6.2	9
利用金融機関が集金にきてくれる	2.3	0.9	1.5	3.3	3.1	10
その他	0.9	0.4	1.2	1.2	0.9	-

5 ローン等の利用

平均借入額は1,067万円

ローン等の利用状況を見ると、利用者は28.2%で、平均借入額は1,067万円となった。昨夏と比較すると、利用者の比率は1.0ポイント低下し、平均借入額も33万円減少した。

利用目的（複数回答）は、「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「教育資金」と続いた。また、昨夏と比較すると、「自動車・家電品の購入」、「旅行・レジャー」、「財テク資金」などの比率が上昇した反面、「土地・住宅の購入」、「教育資金」、「教育資金以外の生活資金」は低下した。

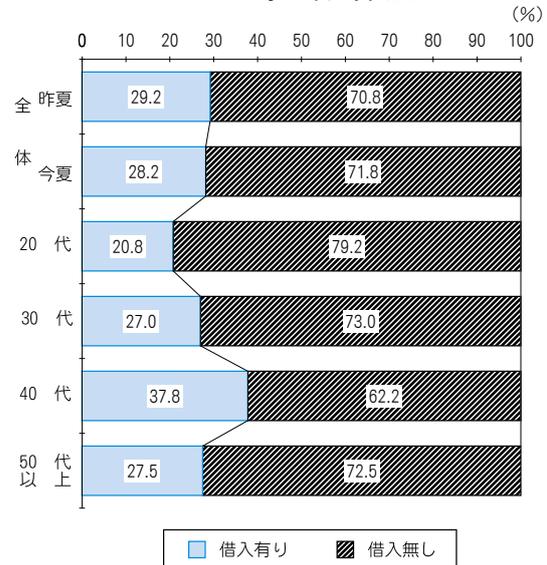
一方、借入先（複数回答）は、「銀行」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「銀行以外の金融機関」、「政府系金融機関」の順となった。昨夏と比較すると、「銀行以外の金融機関」、「政府系金融機関」、「月賦・クレジット会社」の比率が上昇した反面、「銀行」、「その他」の比率は低下した。

これらを年代別にみると、ローン利用者は40代が最も多く、以下、50代以上、30代、20代の順となっており、平均借入額は、20代328万円、30代1,443万円、40代1,342万円、50代以上894万円となった。

また、利用目的は、20代では「自動車・家電品の購入」が、30代以上では「土地・住宅の購入」がそれぞれ1位となった。

なお、借入先は、20代で「月賦・クレジット会社」が、30代以上で「銀行」がそれぞれ1位となっている。

ローン等の利用状況



ローン等の借り入れ先・利用目的

(複数回答)

(%)

	全体	20代	30代	40代	50代以上	
利用目的	土地・住宅の購入	62.2	8.5	66.2	77.8	72.1
	自動車・家電品の購入	30.9	76.6	27.9	16.7	23.3
	教育資金	7.2	8.5	5.9	7.8	7.0
	旅行・レジャー	3.4	6.4	4.4	3.3	1.2
	教育資金以外の生活資金	2.1	2.1	1.5	3.3	1.2
	財テク資金	1.0	0.0	0.0	2.2	1.2
	その他	3.4	0.0	4.4	1.1	7.0
借入先	銀行	61.5	31.9	69.1	64.4	68.6
	月賦・クレジット会社	16.8	34.0	10.3	11.1	18.6
	銀行以外の金融機関	15.8	19.1	11.8	21.1	11.6
	住宅金融支援機構等 政府系金融機関	8.2	0.0	5.9	8.9	14.0
	勤務先	2.4	0.0	1.5	1.1	5.8
	その他	3.1	8.5	5.9	0.0	1.2

6 夏季ボーナス

勤労者はボーナス支給に対して慎重な見方

昨夏と比べた今夏のボーナス（手取り額）の予想は、「増えそう」が10.5%、「減りそう」が15.7%となり、2年連続で「減りそう」の比率が「増えそう」の比率を上回った。

両比率の差（「増えそう」－「減りそう」）は、△5.2と昨夏の△3.8から1.4ポイント悪化した。景況感の改善や労働需給の逼迫により、県内企業ではボーナスを増額させる意向がみられるものの、勤労者はボーナス支給に対して引き続き慎重な見方をしている様子が窺われる。

年代別にみると、20代では「増えそう」の比率が「減りそう」の比率を上回った一方、30代以上では「減りそう」の比率が「増えそう」の比率を上回った。また、昨夏との比較では、20代、40代で「増えそう」の比率が上昇した一方、30代では「減りそう」の比率が大きく上昇している。

平均手取り予想額は37万7千円

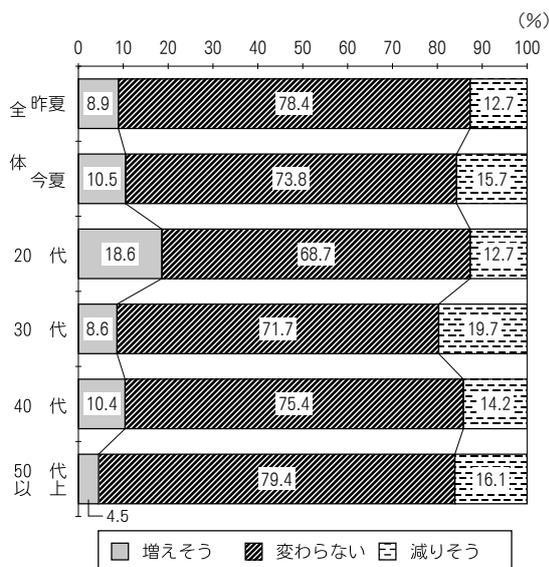
手取り予想額は、「1～20万円」が最も多く、以下、「21～30万円」、「31～40万円」、「41～50万円」の順となった。

昨夏と比較すると、「1～20万円」、「31～40万円」、「41～50万円」の比率が上昇、「21～30万円」、「51～70万円」、「71～100万円」、「101万円以上」は低下した。

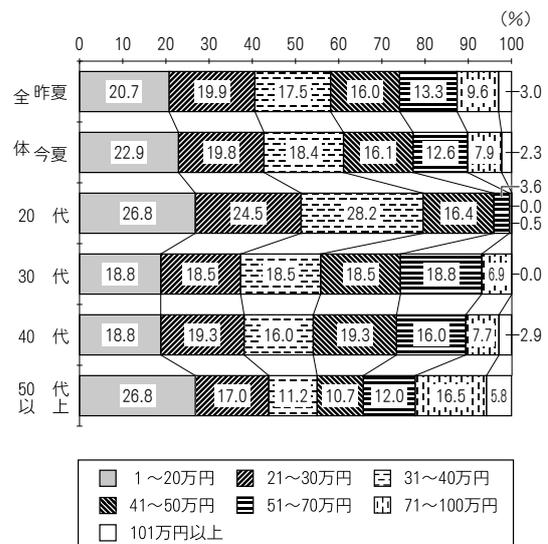
平均手取り予想額は37万7千円（昨夏39万8千円）と、昨夏に比べて2万1千円の減少となった。

年代別にみると、20代が28万8千円（昨夏30万3千円）、30代が38万5千円（同38万4千円）、40代が40万2千円（同43万8千円）、50代以上が43万3千円（同47万2千円）で、昨夏比では30代が1千円の増加となった一方、20代、40代、50代以上は各々1万5千円、3万6千円、3万9千円の減少となっている。

夏季ボーナス増減予想



ボーナス手取り予想額



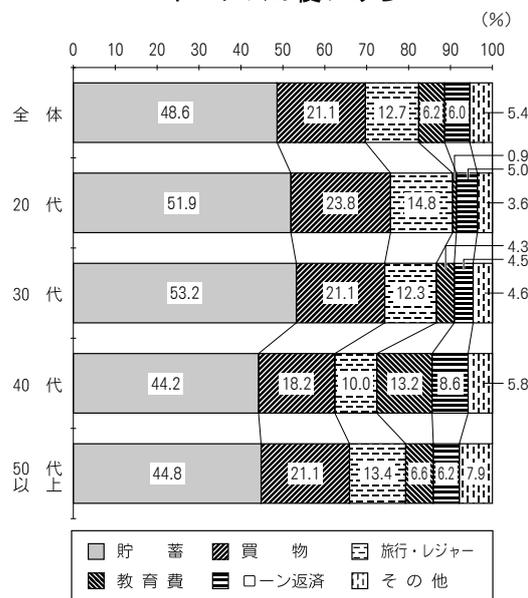
「貯蓄」への配分割合が3年ぶりに低下

ボーナスの使いみちは、「貯蓄」の比率が最も高く、次いで「買物」、「旅行・レジャー」、「教育費」となった。

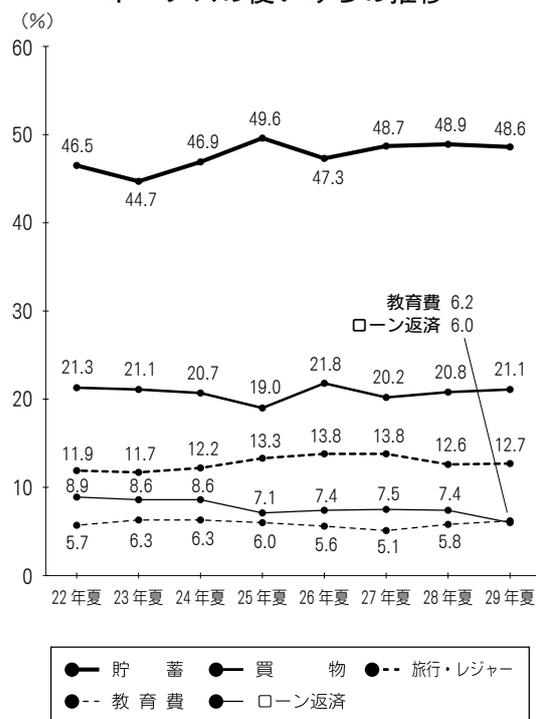
昨夏と比較すると、「教育費」、「買物」、「旅行・レジャー」などの比率が上昇した一方で、「ローン返済」、「貯蓄」の比率は低下した。なお、「貯蓄」への配分割合が低下したのは3年ぶりであった。

年代別にみると、各年代とも1位は「貯蓄」、2位は「買物」となった。3位は20代、30代、50代以上が「旅行・レジャー」、40代は「教育費」であった。昨夏と比べると、40代で「教育費」が比較的大きく上昇したほか、50代では「旅行・レジャー」の上昇、「ローン返済」の減少が目立っている。

ボーナスの使いみち



ボーナスの使いみちの推移



7 お中元

贈る件数は平均 3.6 件

今夏、お中元を贈る予定のある人は 60.6%で、昨夏（60.4%）をやや上回った。

贈る件数は「2 件以下」が最も多く、以下、「3～5 件」、「6～9 件」、「10 件以上」、「件数未定」の順となった。昨夏と比較して「2 件以下」が上昇した一方、「3～5 件」が低下し、平均贈答件数は 3.6 件（昨夏 3.7 件）と昨夏をやや下回った。

年代別にみると、贈る予定のある人の比率は 20 代が 38.7%、30 代が 48.5%、40 代が 64.7%、50 代以上が 82.8%となった。昨夏と比較して 20 代、50 代以上の比率が上昇した一方、30 代、40 代の比率は低下した。

また、贈る件数は、20 代、30 代、40 代では「2 件以下」が、50 代以上では「3～5 件」がそれぞれ最も多くなっており、年代別の平均贈答件数は、20 代が 2.5 件、30 代が 3.0 件、40 代が 3.4 件、50 代以上が 4.4 件となった。

平均単価は 3,955 円、平均予算は 14,256 円

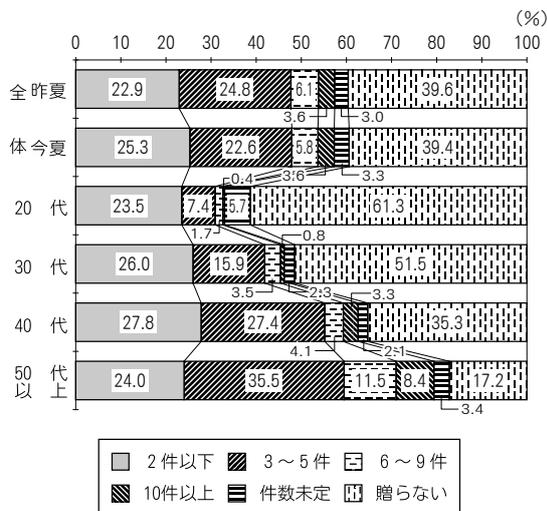
1 件あたりの単価は、「3,000 円程度」が 47.7%と最も多く、次いで、「5,000 円程度」が 39.0%と、この両者で 8 割超を占めた。

昨夏と比較すると、「2,000 円程度」、「3,000 円程度」が低下した一方、「5,000 円程度」、「7,000 円程度」、「10,000 円程度」、「15,000 円以上」が上昇しており、平均単価は 3,955 円と昨夏（3,837 円）に比べて 118 円上昇した。

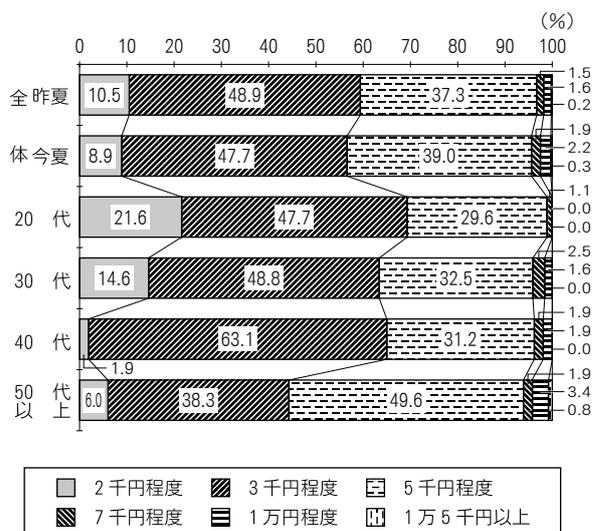
このように、平均贈答件数が前年をやや下回ったものの、平均単価は上昇したことから、平均予算総額は 14,256 円と昨夏（14,215 円）に比べて 41 円増加した。

なお、年代別の平均単価は、20 代が 3,415 円、30 代が 3,709 円、40 代が 3,811 円、50 代以上が 4,342 円となっており、平均予算総額は、各々 8,550 円、11,142 円、12,974 円、19,127 円となった。

お中元を贈る件数



お中元の相場
(1 件当たり平均単価)



「果物」、「直送生鮮品」の支持率が上昇

お中元に贈りたい商品（5品目まで選択）は、「ビール」（含むビール券、以下同じ）が最多で、以下、「ハム」、「お菓子」、「食用油」、「果物」の順となった。上位5品目を昨夏と比較すると、1位の「ビール」と2位の「ハム」が同順位となった一方、「果物」（昨夏8位）は順位が5位に上昇するなどの変動がみられた。

支持率をみると、上昇した品目は10品目で、このうち「果物」、「直送生鮮品」（いずれも昨夏比+4.5ポイント）の上昇が目立った。一方、低下した品目も10品目で、このうち定番品の「ビール」（同△5.9ポイント）、「食用油」（同△3.7ポイント）の低下が目立った。

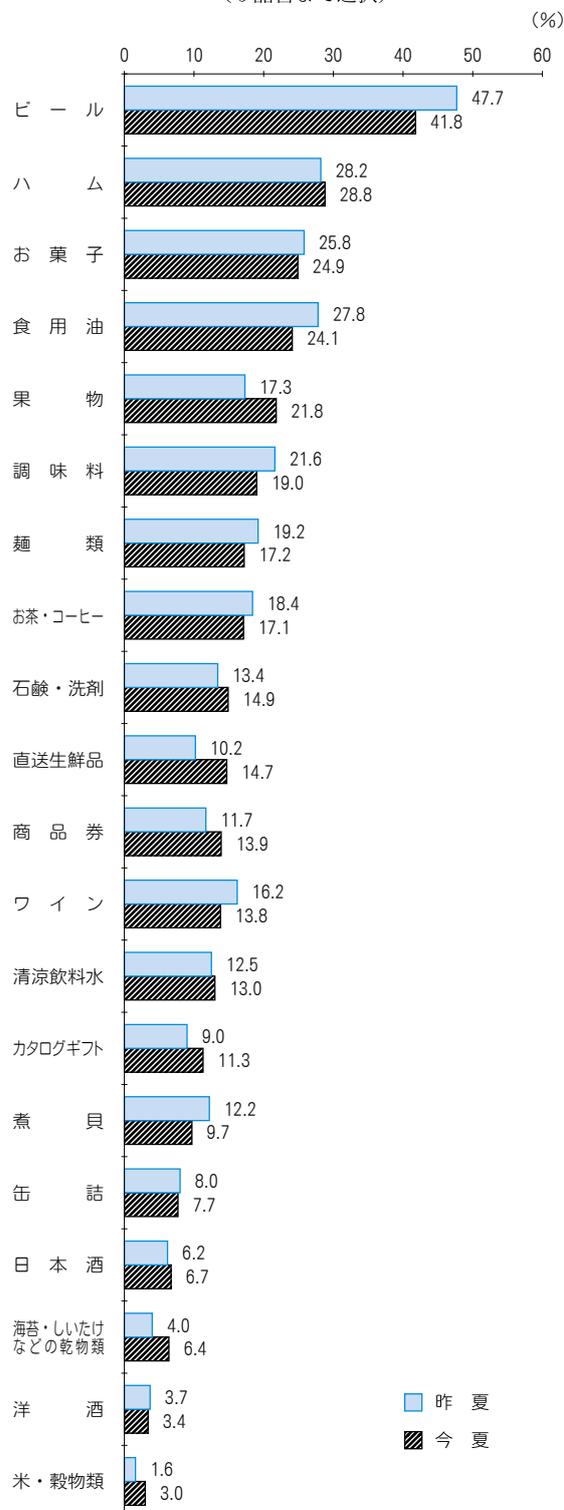
なお、上位品目を年代別にみると、各年代とも1位は「ビール」で、昨夏から順位に変動はなかった。一方、20代では「カタログギフト」が4位、50代以上では「果物」が3位となるなど、1位以外では年代によってばらつきがみられた。

お中元に贈りたいものベスト5

順位	20代	30代	40代	50代以上
1	ビール (含むビール券)	ビール (含むビール券)	ビール (含むビール券)	ビール (含むビール券)
2	ハム お菓子	食用油	ハム お菓子	ハム
3		調味料		果物
4	カタログギフト	ハム	食用油	食用油
5	食用油、果物 お茶・コーヒー	お菓子	果物	麺類

お中元に贈りたいもの

（5品目まで選択）



8 夏休みの過ごし方

「特に予定なし」の比率が低下

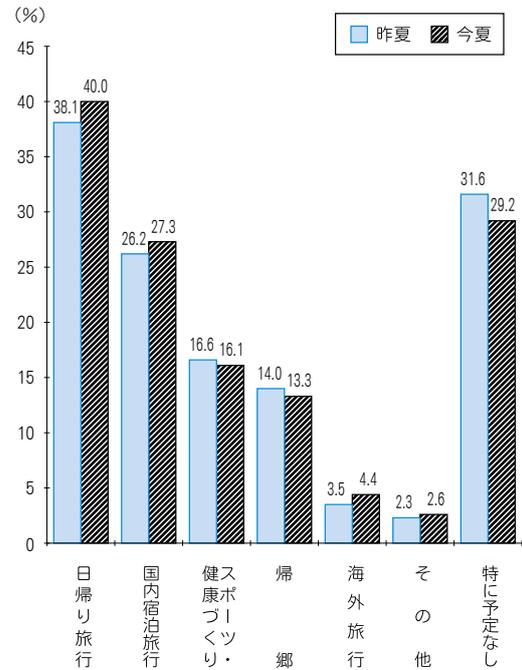
夏休みの過ごし方（複数回答）は、「日帰り旅行」が40.0%を占め最多となり、以下、「国内宿泊旅行」、「スポーツ・健康づくり」、「帰郷」、「海外旅行」の順となった。なお、「特に予定なし」は、29.2%となっている。

昨夏と比較すると、「日帰り旅行」（昨夏比+1.9ポイント）、「国内宿泊旅行」（同+1.1ポイント）などが上昇した一方、「特に予定なし」（同△2.4ポイント）などが低下した。なお、「特に予定なし」は近年低下が続いており、旅行などの目的を持って休暇を過ごす傾向が窺われる。

年代別では、20代、30代、40代で「日帰り旅行」が、50代以上で「特に予定なし」が最多となった。年代が低いほど「日帰り旅行」を、年代が高いほど「特に予定なし」を選択する割合が高くなっている。昨夏と比較すると、20代で「国内宿泊旅行」（同+7.2ポイント）の上昇、40代で「日帰り旅行」（同+10.0ポイント）の上昇が目立った。

「国内宿泊旅行」の宿泊日数をみると、「1泊」

夏休みの過ごし方（複数回答）



が52.1%と5割強を占め、以下、「2泊」（32.9%）、「3泊」（13.6%）、「4泊以上」（1.4%）となった。平均宿泊日数は1.6泊で、昨夏（1.7泊）と比べて若干減少した。

夏休みの過ごし方（複数回答）

	日帰り旅行	国内宿泊旅行	スポーツ・健康づくり	帰郷	海外旅行	その他	特に予定なし
20代	47.6	35.5	22.1	12.6	6.9	2.2	22.1
30代	43.6	26.3	15.1	15.8	6.2	3.1	24.3
40代	42.8	23.0	14.0	16.0	1.6	1.6	27.2
50代以上	29.2	25.8	14.0	9.9	3.4	3.4	40.1
全体	40.0	27.3	16.1	13.3	4.4	2.6	29.2

夏

平成29年6月5日(月)～平成29年8月31日(木)

この夏、将来の備えを考えてみませんか？

資産づくり応援コース

対象 対象商品をご契約いただいた個人のお客さま (新規または増額のご契約を対象とさせていただきます)

特典1 『スポーティングベアー
オリジナルマルチバンド』
先着6,000名様に
プレゼント



山梨県産の間伐材を使用しており、森林環境の保全に役立つ商品です。
製造・加工は被災地や福祉施設で行っています。

※画像はイメージです。

特典2 豪華景品が当たる
ダブルチャンス!!
合計10名様に
抽選で
プレゼント



NISA口座開設のお客さまには **500円プレゼント!** (ジュニアNISAのお客さまには
クオカード500円分プレゼント!)

JIMOCA入会コース

JIMOCA
または
山梨中銀DCカード
新規ご入会で
個人のお客さまを対象に

3,000円相当ポイントをプレゼント!
(DCハッピープレゼントポイント600ポイント)

特典1のご留意事項 ●ATM・インターネットにてご契約いただいたお客さまは、窓口までお申し出いただけますようお願いいたします。●景品はキャンペーン期間中お1人さまおひとつとさせていただきます。●色はご希望にそえない場合がございます。
特典2のご留意事項 ●対象商品のご購入金額に応じて、抽選権をお付けいたします。応募のお手続きは不要です。●キャンペーン終了後、当行所定の方法により、厳正な抽選を行います。キャンペーン期間中にご契約の場合、抽選権は無効となります。
JIMOCA・山梨中銀DCカードのご留意事項 ●DCカードの発行については、山梨中銀ディーシーカード(株)へお取次ぎいたします。●DCハッピープレゼントポイントは、ご契約いただいたJIMOCA・山梨中銀DCカードに付与されます(カードの発行から2～3か月後が目安となります)。●キャンペーン期間中に解約された場合は、対象外となります。●クレジットカードの入会には審査があり、ご希望にそえない場合があります。

こちらからもキャンペーン
情報をご覧ください!

ホームページへアクセス!

山梨中銀 夏のキャンペーン

検索

店頭またはATMコーナーに、かわいい
キャンペーン内容を記載したリーフ
レットをご用意しております。

LINE@ × @yamanashibank

株式会社山梨中央銀行 / 登録金融機関 関東財務局長(登金)第41号 / 加入協会 日本証券業協会

くわしくは山梨中央銀行の窓口 または フリーダイヤルへどうぞ

0120-201862 照会コード 9

(受付時間)月曜日～金曜日 9:00～17:00(ただし、祝日12/31～1/3は除きます。)

山梨中央銀行

https://www.yamanashibank.co.jp/
(平成29年6月1日現在)